

mamagaku.

妊娠中・生後2ヶ月からの親子対象

未来の子育て はじめて講座



世界の教育の基準「対話型」の子育て法で
「赤ちゃんが気持ち分かる対話」と
AI時代を生き抜く「新しい教育の価値観」
についてママガク新井学長から学ぼう！



「勉強さえできれば OK の時代は終わる」

「何を持って優秀とするのか」

これからの未来へ育ち生き抜くために
「親の子育て総合力」が問われる時代。

パパとママは愛情をしっかりと伝えて、**世界へ踏み出す土台**を作り
それぞれの目線で**情報収集**と**お金の準備**と**子どもの興味が深まる機会**を創出し
子どもは**興味を広げて世界を知って生きていく**。親はそれを見守っていく。

未来へと生き抜く力

学びの多様性

【講師】新井美里（mamagaku 学長／一般社団法人子育てデザイン総合研究所 理事）

お台場からスタートし、武蔵小杉・吉祥寺・葛西の商業施設にて全講座赤ちゃん連れ OK のママガクを運営。講座と親子イベントで年間約 8000 名、述べ 4 万人以上の妊娠中～2 才前後の親子に子育てを学ぶ楽しさを伝える講座や、未来を生きるための必要な能力を育む、世界の教育の基準「対話型」家庭教育クラスと、こどもリベラルアーツけんきゅうじょ担任として年間累計 750 講座を担当。

プライベートでは自然と旅、音楽、子育てを愛する、3 児の母。不妊症をきっかけに補完代替医療に興味を持ち、人間本来の力を呼び戻す自然な生き方を取り入れ、2003 年に長女、2006 年に次女、2011 年に長男を助産院もりあねで出産。子どもたちの個性を発見し伸ばしていく「対話型家庭教育」をベースに、自己表現が大好きな長女は偏差値・テスト・制服がない、競争原理を排除した自由教育を実践する中学校を卒業。次女は小学 5 年生からホームスクーラーとしてサドベリー教育を実践し、公立中学校へ在籍中。長男はモンテッソーリ教育を行う認可保育園を経て、公立小学校へ在籍中。

最新の教育ニュース

入試にスマホ持ち込み OK 東京女子学園中、データ読み解く力を試す

東京女子学園中学校（東京都港区）はこのほど、2020年2月に実施する入学試験の算数で、スマートフォンの持ち込みを認めると発表した。受験者はスマホの検索機能や計算機能などを自由に使い、試験問題に回答する。同校によると、スマホの持ち込みを許可する入試は日本初という。

例えば「アイスクリームを食べる量と気温はどのような関係にあるか」「日本中にアンパンマンのぬいぐるみは何個あるか」といった問題を出題し、ネット上の資料を読み解き、判断や説明ができるかを問う。指定された URL のページを開けるか、文章を入力できるか、提示された情報から場所を特定できるか——といったスキルも試す。

スマホを持っていない受験者には、学校がタブレット端末を貸し出す。試験中、問題を外部に送信したり、外部の人とやりとりしたりすることは禁止する。同校は「情報の変化速度と量が加速度的に増加している現代では、知識の細かさや量だけが問題ではなく、情報をどう得るか、どう評価するか、どう活用するか、そのためにどう学ぶかが重要な能力になる」と説明している。

※参考資料1 スマホ持ち込み OK 入試サンプル問題「アイスクリーム」

Web サイト「アイスクリーム BIZ」を調べて、以下の問いに答えなさい。

問 アイスクリームを食べる量と気温はどのような関係にあるでしょうか。



-
- 評価の視点 ①資料中に取り上げられている地域の気候を検索等で把握できているか。
②資料中に取り上げられているデータと地域の気候のデータを概括的にとらえられているか。
③また、②に基づいて評価と判断ができているか。

※参考資料2 スマホ持ち込み OK 入試サンプル問題「ぬいぐるみ」

日本中にアンパンマンのぬいぐるみは何個あると思いますか。資料にあたり、みなさんの考えを、言葉と式を使って表してください。

-
- 評価の視点 ①人口や出生数など判断に必要な子供の数についてのデータを把握できているか。
②所有率の仮定ができているか。
①・②に基づいて数学的な説明ができているか。
自らの考えの根拠や仮定が説明できているか。

最新の教育ニュース

お茶の水女子大学【フンボルト入試】を実施

「図書館入試」とは、お茶の水女子大学（以下、本学）が 2016 年度入試（2017 年度入学）から実施する、新しい AO 入試「新フンボルト入試」の一部です。全体像は、一次選考を兼ねる文理共通のプレゼミナールと、二次選考（文系「図書館入試」、理系「実験室入試」）の二段構えとなっています。

三重県・鈴鹿市ペッパーくんがプログラミング授業

（ペッパーを動かしたり会話させるプログラミング／2020 年までに市内全小中学校 40 校で活用）

戸田市とソフトバンク英語教育で連携 AI ロボット活用



秋田の人口たった 2600 人の村が「学力日本一」に

秋田県の東成瀬村は奥羽山脈の懷に抱かれた雪深い村だ。東成瀬村の存在を広く世に知らしめたのは「学力テスト」である。スーパーも民間の塾もない、人口減少と少子高齢化の進む小さな豪雪の村の子供たちの学力が、なぜ高いのだろうか？単刀直入に村の人たちにこの質問をぶつけると、かなりの確率で「(町村) 合併しなかったから」という答えが返ってくる。高校野球に例えると、100 人の部員のいる野球部はレギュラーになるために激しい競争がある。100 人の切磋琢磨によってチームは強くなるが、当然、落伍者も多くなる。それが、東成瀬村には最初からギリギリの 9 人しかいない。1 人の故障者や落伍者が出ても試合出場は不可能だ。慎重にひとりひとりの個性を見極め、短所をつぶすのではなく、長所を伸ばす方法しかとれない。

ママガク家庭教育クラスの子育てメソッド 【赤ちゃんとの「対話」によって「非認知能力」「自己肯定感・自信」 を育む家庭教育法】について

これまで主流だった「子どもに教える」という親から子どもへの一方通行の教育ではなく、**世界の教育の基準となっている【対話】を何より大切にしたママと赤ちゃんの「対話型子育てメソッド」**です。（対話とはお互いの違いを受け入れて双方向でおこなうコミュニケーションです）

まだお話しができない赤ちゃんの時はママが「**赤ちゃんの心の観察**」をすることで対話ができます。たとえば「泣く」理由を知り、受け入れ、我が子と接することは対話の一つです。少しずつ言葉が出てくる1歳の頃になっても、まだまだ心の観察によって対話をする必要があります。

この観察をベースにした「**心の対話スキル**」をママが身につけることで、我が子が小学生や思春期に入る中学生になっても「**子どもが表現できない心の不安や悩み**」を読み取り語りかけ、子どもは自分のことをきちんと見てくれている、**受け止めてくれていると親子の信頼関係**が築けます。

ママが我が子との対話を上手にできていれば、**多くのママたちが悩む「しつけ」もラクに**できるようになります。（子どもが全然言うことを聞いてくれない＝しつけが大変になってしまう原因は、ママと赤ちゃんの双方向の対話出来てないことが原因です）

**我が子との日々の対話、信頼関係によって、
子ども自身がありのままの個性を伸ばす力（自己肯定感）、
忍耐力・社会性・感情のコントロール力（非認知能力）が発達していきます。**

お互いに異なる価値観を受け入れる「対話」を通じて、生後2ヶ月～2歳前後までの赤ちゃんの成長発達にあわせた子育て法（観察の仕方、遊び方、向き合い方、刺激の与え方、友達との関わり方）を学び、親子関係を作るとともに**我が子の「非認知能力」「自己肯定感・自信」を育む家庭教育**をお伝えします。

【赤ちゃんとの「対話」ってどんなこと？】

皆さんが子育てをしている中で「こんな時はどうしてあげればいいのか」という疑問はありませんか？

★**ねんねの頃**：赤ちゃんがご機嫌な時に何もしなくていいのか。それとも構ってあげた方がいいのか。

★**寝返りの頃**：寝返りをしたいのにまだ自分ではできない時、ママが寝返りをさせてあげた方がいいのか、それとも赤ちゃん自身の力でできるまで見守ってあげた方がいいのか。

★**ずりばい・おすわりの頃**：一人遊びをしている赤ちゃん。であげた方がいいのか、一人で遊ばせたほうがいいのか。

★**ハイハイの頃**：触ってはいけないものを触りに行こうとする赤ちゃんに怒っていいのか。それともまだ分からないから怒らなくていいのか。

★**つかまり立ちの頃**：自分の意思が強くなってきた時、その意思を受け入れること（甘やかす）ことで、将来わがままな子になったりしないのか。

【見守る・観察が楽しくできる!】

個性・才能を発見するために今すぐ出来る赤ちゃんとのコミュニケーション術

赤ちゃんの要求はとてもシンプルです。「お腹が空いた、うんちをしたからお尻が気持ち悪い」等、自分がイヤなことがあると「泣く」、お腹を満たすために、ミルクはおっぱいを「吸う」。そしてお腹がいっぱいになったら「排泄」をする。その要求を満たして上げることで、赤ちゃんはご機嫌になります。

「才能は、好きなことの中にしか存在しない」と言われています。好きなことを夢中になれる時間を作るためにも、赤ちゃんや子どもにとって「機嫌のよい時間」を増やしてあげることが、とても大切です。

ご機嫌になれば自然と赤ちゃんは天井を見て笑ったり、オモチャで遊んだり、自分が興味あることに対して夢中になります。実は「遊び」には起承転結があります。その法則を知ること、我が子が何に興味があるのか、何に夢中なのか、小さな発見を日々積み重ねることで、結果「子どもの好きなこと」を見つけることができます。

遊びの起承転結

- ① 関心を持つ ② つかむ ③ 遊びに熱中する ④ 飽きる

才能は「天性の才能」だと言われますが、「珍しい能力」のことではありません。才能は一人一人が必ず持っています。才能とは「見つけるもの」であり、ただそれを「生かしきっているかどうか」に過ぎないのです。そのためにも、親ではある私たちは日々の暮らしの中で、赤ちゃんや子どもが「熱中していること」を見つけてあげることが大事なのです。

飽きずに長く続けられることには、なかなか出会えるものではありません。

その熱中していることを親が受け容れることで、更にその才能は開花していくでしょう。

【才能を発見するために大事なこと】

- ・赤ちゃんや子どもが機嫌の良い時間を増やしてあげる。
- ・熱中していることを止めずに、見守ってあげる。
- ・好きなことに理由を求めない。(好きに理由はなく、やっていてそれが自分に合っているから気持ちよくなれる→長続きする→上手くなる→才能になる)

【見守る・観察をしてみよう!】

① 関心を持つ

② つかむ

③ 遊びに熱中する

④ 飽きる

Day1. 心の土台「自己肯定感」を育てる

～“どういう子に育ててほしいか”より“どう育てているか”～

親がわが子に対して、「こういう子に育てて欲しいな」という気持ちを抱くのは、とてもステキで自然なことです。そして、「こう育てて欲しい」という親の思いよりも、子どもの健やかな成長にとって、もっともっと大切なことがあります。それは、「今、わが子がどう育てているかをしっかり見て、肯定的に受け止める」ということ。

どうして「わが子がどう育てているかをしっかり見て、肯定的に受け止める」ことが、そんなに大切なのでしょうか？それが、子どもの自己肯定感を育むことに直結するからです。自己肯定感とは、「ありのままの自分を尊重し受け入れる態度」です。「今の自分は幸せに生きているし、未来の自分も幸せに生きることができる」という自信を持てることを意味します。自分の中での幸福感とも言えます。自己肯定感が高ければ高いほど、自分が本来持っている才能をより発揮できると言われています。誰もがそれぞれに、様々な才能を持って生まれてきますが、自己肯定感が低いと、自分が持って生まれた才能を十分発揮することができません。

また、自己肯定感が高いと、「今の自分は幸せに生きているし、未来の自分も幸せに生きることができる」という自信と同時に、「自分は人の役にたつことができるし、未来の自分も人の役に立つことができる」という気持ちを持てるようになります。人の役に立つとは、他人を思いやることです。自己肯定感が低いと、「今の自分はあまり幸せじゃないし、未来も幸せに生きる自信がない」ために、「自分は人の役に立たない、価値の低い人間だ」という気持ちが強くなってしまし、他人を思いやる気持ちが薄くなってしまいます。他人を思いやる気持ちが希薄だと、もう少し大きくなってから、しつれたり、社会性を育てたりすることが難しくなります。しつれたり社会性を育てたりする前にすべきことは、自己肯定感を育てることです。

親はともすると、「そうじゃなくて、もっと〇〇しなさい！もっと〇〇な子になりなさい！」と叱咤激励する方が、子どもが伸びるのではないかと思いがちですが、それは大きな誤りです。人は、「今のありのままの自分」を肯定されて初めて、「より良い自分」へと成長していくことができるのです。親の「こう育てて欲しい」という思いが強すぎると、子どもの今のありのままをしっかりと見て受け止めることが難しくなります。親の希望である「どう育てたいか」よりも、「どう育てているか」を見極める力を養うことがこれからの時代は特に重要です。乳幼児期から親がそうした力をつけていくと楽しく楽に子育てできるようになり、そして子どもは自分らしさを発揮して才能を開花させて、のびのびと生き抜いていけるようになります。